



七尾市

地区別復興構想
石崎地区

2025.11

目次

地区別復興構想の策定にあたって-----	2
七尾市戦略的復興プランとの関連性-----	3
1 石崎地区の現況の整理-----	4
2 地域の課題-----	8
3 復興まちづくりの方針-----	10
4 復興まちづくりに向けて考えられる施策-----	12

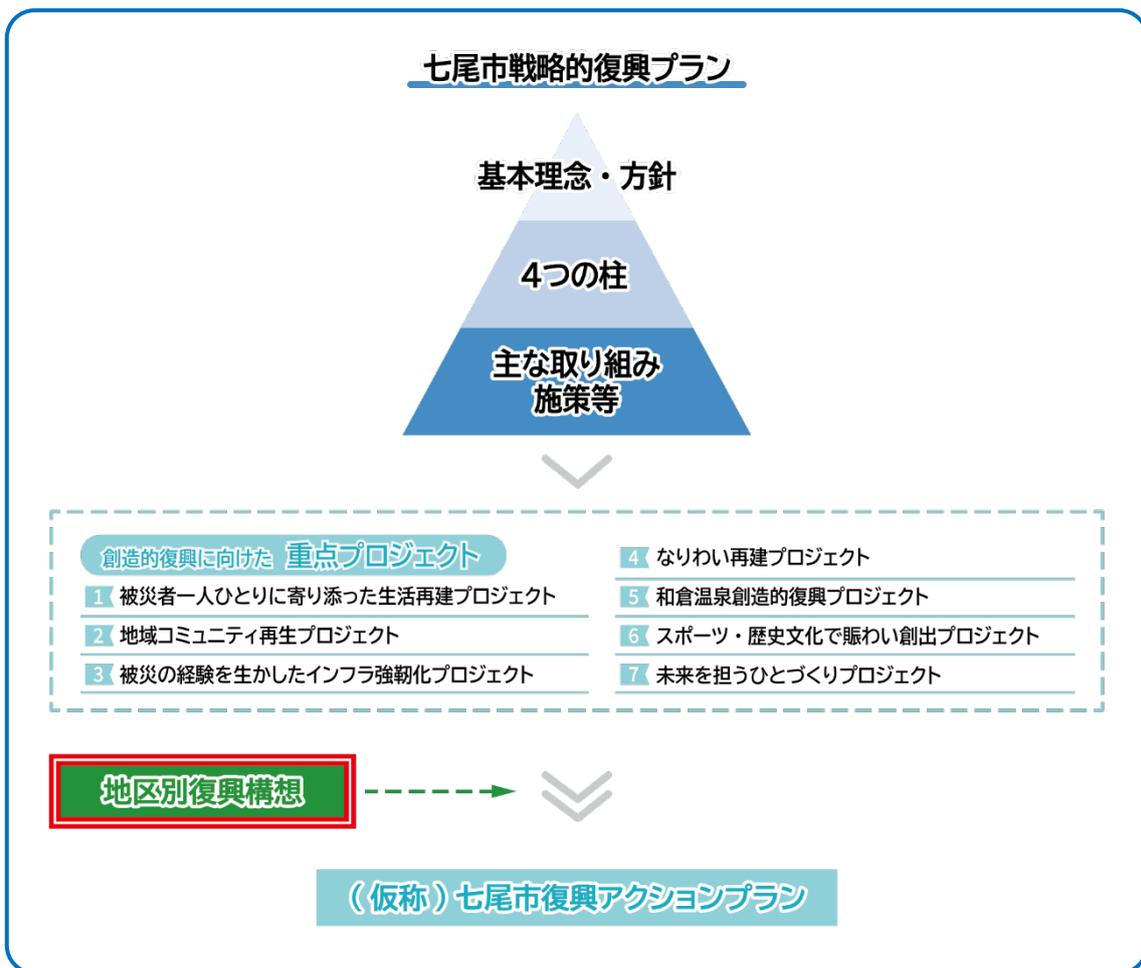
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

地区別復興構想の策定にあたって

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和7年2月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

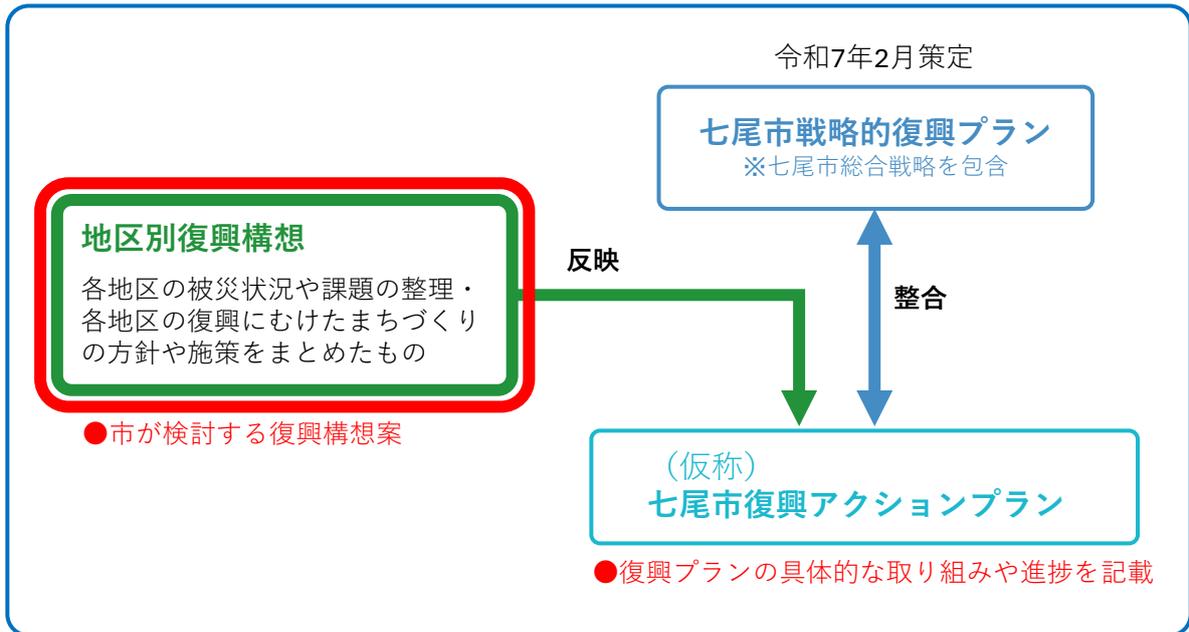
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全15地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取り組み」に対して意見を伺いました。



1 石崎地区の現況の整理

(1) 被災状況

七尾南湾に面しており、令和7年10月末時点で人口2,545人の地区である。昭和14年に七尾町および1町5村（東湊村、矢田郷村、徳田村、西湊村、石崎村、和倉町の一部）、平成16年に3町（田鶴浜町、中島町、能登島町）との合併により七尾市となる。

令和6年能登半島地震により、被災した住家の約43%が半壊以上の被害を受けた。石崎漁港で広範囲にわたり岸壁の損傷があり、臨港道路の損傷箇所も多い。

住宅	被災した住家の約43%が半壊以上の被害
公共施設	壁の損傷や設備の故障などの被害 (石崎小学校、能登香島中学校) 旧石崎保育園では地割れが発生
道路	石崎町付近でマンホールの隆起と舗装沈下被害
護岸・河川	石崎漁港で広範囲にわたり岸壁に損壊 臨港道路の損傷が多く発生
公園・緑地	七尾市和倉温泉運動公園で広範囲に渡る地割れが発生
その他	宅地造成被害が1か所で発生

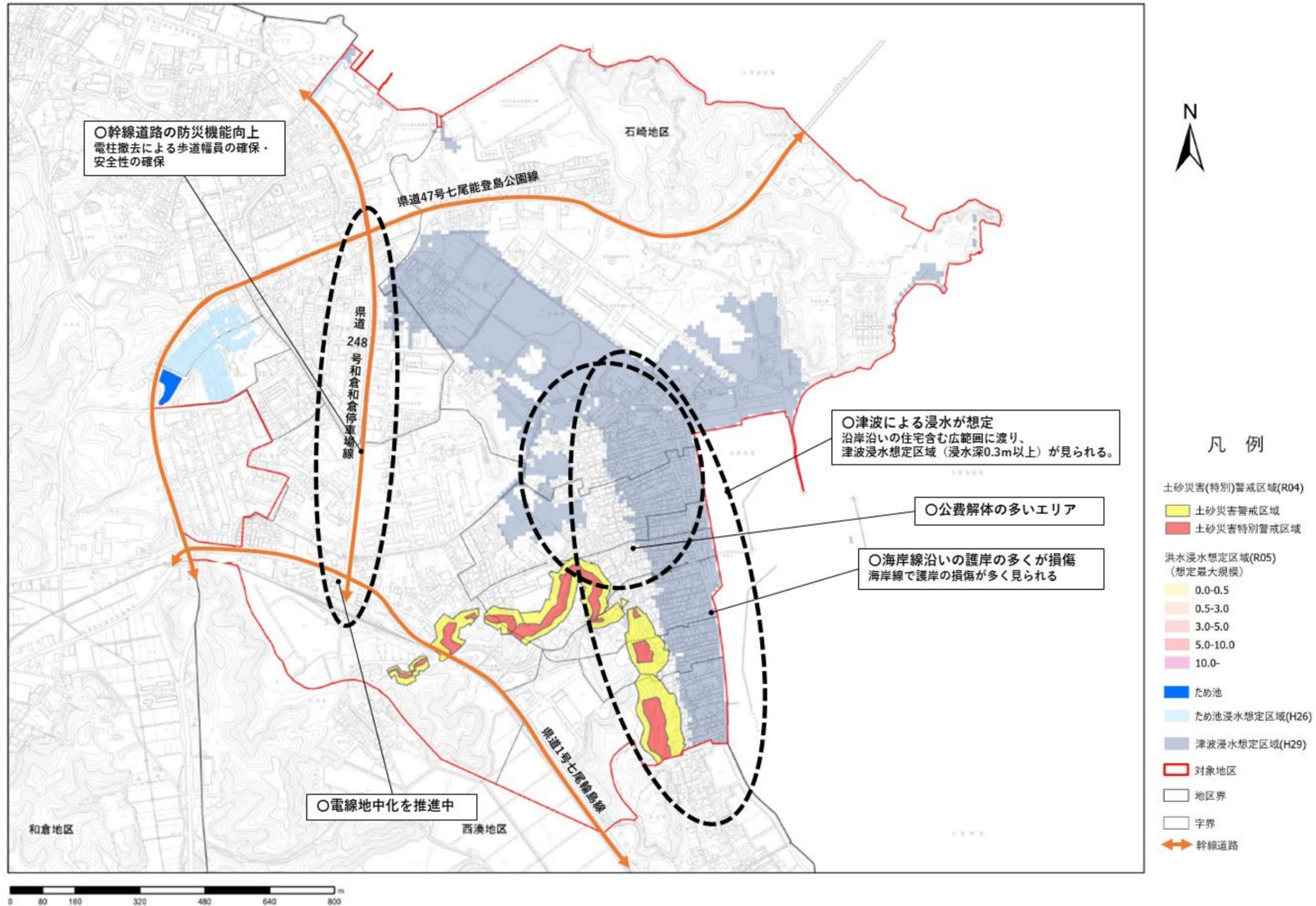
(2) 各種災害におけるリスク

石崎町の海岸沿いに津波浸水のリスクが想定されている。今回の地震では、津波による大きな被害は出ていないが、引き続き警戒が必要である。

一方、石崎町の山側には土砂災害のリスクがあり、石崎小学校の一部が土砂災害警戒区域に含まれるほか、地区内には土砂災害特別警戒区域が存在している。また、地区を流れる浜岡川流域では令和6年9月の大雨で用水路が越水し住宅に浸水被害が発生した。

津波	石崎町の海岸沿いおよび石崎町香島周辺で0～3.0m程度の津波による浸水リスクが想定
洪水	令和6年9月の大雨の際に住宅で浸水被害が発生
土砂災害	石崎町の山側斜面で土砂災害リスクが想定
その他 (ため池氾濫など)	1か所のため池で氾濫リスクが想定 地区全体で液状化リスクが想定 特に、南部の海側平野部で液状化リスクが高い

現況分析 | 石崎地区



2 地域の課題

(1) 住宅 | 木造家屋の密集と被災、空き地の管理

木造住宅が密集した地域では、多くの住家が被害を受け、今後空き地や空き家の増加が予想される。また令和6年の石崎奉燈祭では、住宅被災の影響により経路の変更を余儀なくされた。

さらに、地区内の空き地に関しては、地権者が周辺に住んでいないことなどによる管理不足が大きな課題となっている。

(2) 暮らし | 石崎奉燈祭の継続開催

石崎奉燈祭は令和6年能登半島地震による被害を受けながらも開催を継続しているが、祭りの参加者や資金の不足など、継続開催に向けた課題があり支援が重要である。

(3) 仕事 | 漁業の被害

漁業について、地震による地形の変化により漁獲量が減少しているため、漁業振興に対する支援が必要である。

(4) インフラ・防災 | 避難場所の確保、洪水による浸水リスク

今回の地震では避難場所へ避難者を収容できない事態となったほか、洪水・内水時に利用できる指定避難所・指定緊急避難場所が石崎小学校のみであるため、避難場所の確保が課題である。

また、浜岡川流域では令和6年9月の大雨で浸水被害が発生した。養泉寺周辺の一部山側には、土砂災害発生リスクが存在する。

(5) 交通 | 狭隘道路・道路被害による交通の支障

狭隘道路の多い地区であり、災害時の避難や車両の通行において支障となり、住宅再建の遅れにもつながっている。また、道路損傷箇所が多く、石崎～和倉中心部、石崎～中心市街地との接続ルートの復旧が求められる。

3 復興まちづくりの方針

石崎奉燈祭や漁業などの地域資源を生かしながら、防災面では洪水・土砂災害に対応していく必要があるため、地域と行政が連携して復興に向けた取組みを推進していく。

復興まちづくりの基本方針

(1) 住宅 | 居住の考え方

被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組む。特に復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保が重要である。また、空き地や空き家の管理面での課題に対して、方針を検討する必要がある。

(2) 暮らし | 暮らしの考え方

地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要であり、近隣の和倉地区や西湊地区の食料品店や飲食店などを活用するなど、周辺地域と連携していくことが重要である。

また、地区を代表する石崎奉燈祭については継続開催に向けた支援などを今後も検討していく。

(3) 仕事 | 産業の考え方

震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要である。

(4) インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方

将来の大規模な自然災害への備えとして、特に大雨災害時に活用できる避難場所の確保が重要である。護岸機能の強化や河川改修といったハード施策だけでなく、避難場所の確保や避難体制などソフト面でどのように対応を検討するかといった観点も必要であり、民間施設との災害連携協定の締結や避難場所の確保に向けた検討を行う。

(5) 交通 | 交通の考え方

災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組む。また本地区では、狹隘道路の拡幅についても検討を行う必要がある。

4 復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和7年2月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和6～10年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものであり、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

全2回の意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第1回	2025/5/25	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の地域づくり協議会の活動状況について ・地域が考えるまちづくりの現状と課題について ・地域がイメージする20年後のまちづくりについて
第2回	2025/8/19	重要と考える復興に向けた取組みについて



地域づくり協議会との意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

復興まちづくりに向けて考えられる施策

(1) 防災 | 避難時に利用する施設の整備・強化【インフラ・防災】

高台の避難場所が限られているため、市指定の避難場所以外にも地域が自主避難所として指定を行うことが必要である。また災害時を見越して、養泉寺など民間施設との連携や防災計画の作成も重要である。

(2) 観光 | 伝統文化の保護・継続への支援【仕事・暮らし】

地域の伝統文化を次世代に継承していくため、子どもたちが文化に触れる機会を増やし、地域で担い手を育てていくことが重要である。また、石崎奉燈祭の開催にあたっては地域外の人との協力が不可欠であり、継続的に参加してもらえらるための施策が求められる。

(3) 農林水産 | 漁業の担い手確保に向けた支援【仕事】

地震により海底地形の変化などの海の環境変化が起こったため、漁獲量に大きな変化が発生した。アマモを増やす取組みなど海の環境保全の取組みと合わせて漁業の振興に向けた支援が求められる。

(4) インフラ | 防災力向上のためのインフラ整備【インフラ・防災】

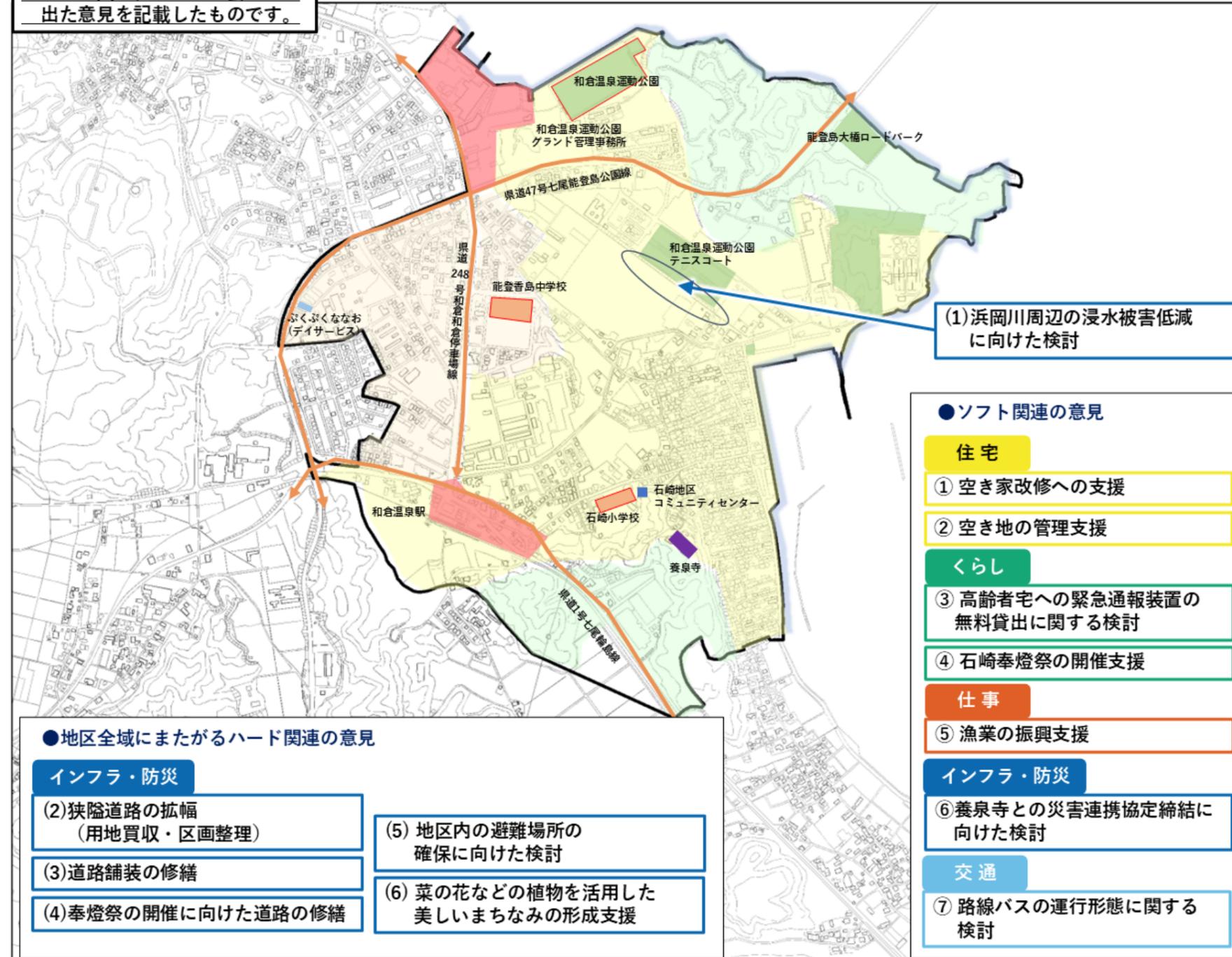
石崎漁港の周辺は狭隘な道路が多く、被災家屋の復旧や住宅再建の支障となっているほか、避難における妨げとなっている。狭隘道路の拡幅に向けて、用地買収や区画整理などの検討が求められる。

(5) 空き地・空き家 | 解体・管理の支援【住宅】

今後空き地の増加が懸念されており、特に小規模な空き地が点在し町の空洞化を助長することが懸念されている。また遠方に居住する人が所有する空き地や空き家については、草刈りなどの管理に対する支援や、放置された空き地・空き家への対策が求められる。

地区別意見整理図 | 石崎地区

※この地図は、意見交換会の中で
出た意見を記載したものです。



- 地区全域にまたがるハード関連の意見
- インフラ・防災
 - (2) 狭隘道路の拡幅 (用地買収・区画整理)
 - (3) 道路舗装の修繕
 - (4) 奉燈祭の開催に向けた道路の修繕
 - (5) 地区内の避難場所の確保に向けた検討
 - (6) 菜の花などの植物を活用した美しいまちなみの形成支援

- ソフト関連の意見
- 住宅
 - ① 空き家改修への支援
 - ② 空き地の管理支援
 - 暮らし
 - ③ 高齢者宅への緊急通報装置の無料貸出に関する検討
 - ④ 石崎奉燈祭の開催支援
 - 仕事
 - ⑤ 漁業の振興支援
 - インフラ・防災
 - ⑥ 養泉寺との災害連携協定締結に向けた検討
 - 交通
 - ⑦ 路線バスの運行形態に関する検討

凡例

●主要機能

- 学校
- 緑地・広場
- 集会施設等
- 医療福祉施設
- 文化・スポーツ施設
- 幹線道路
- 指定避難所・指定緊急避難場所

●ゾーン

- 商業・交流
- 住宅・市街地
- 公園・緑地
- 農地
- 森林

●地区別意見整理図に記載の意見の分類

- (1)…ハード事業に関する意見
- ①…ソフト事業に関する意見

- 住宅
- 暮らし
- 仕事
- インフラ・防災
- 交通

0 250 500 1,000メートル 縮尺 1:10,000

地区別復興構想
石崎地区